



メバチ

中西部太平洋

主な漁業と漁期

まき網(冷凍): 周年(未成魚・成魚)
はえ縄(生鮮): 夏～秋(成魚)

生態

刺身として最も一般的に利用されています。まき網で漁獲される小型個体は缶詰などの加工原料となっています。

●分布・回遊

太平洋においては、熱帯域から温帯域にかけて広く分布しています。若齢で小型のメバチは、同じ大きさのカツオなどと群れを作ることがあり、主に表層に分布します。成長すると単独の群れとなり、より水深の深い層にも分布するようになります。

●産卵期・産卵場

水温24℃以上の水域でほぼ周年行われていますが、主な産卵期は、赤道の北側では4～5月、南側では2～3月です。多回産卵を行っており、産卵期にはほぼ毎日産卵し、産卵は夜間に行われていることが報告されています。

●成長・成熟

成長は1歳で尾叉長49cm、2歳で78cm、3歳で99cm、4歳で113cm、5歳で126cmに達します。寿命は10～15歳と考えられています。

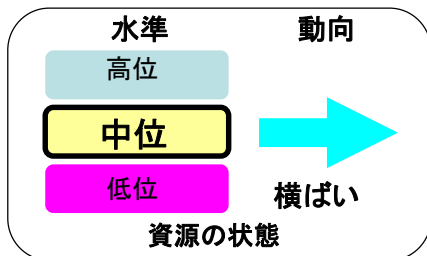
生物学的最小型は90～100cm、14～20kg(満2歳の終わりから3歳)で、雌は92cmで50%、雄は135cmで50%が成熟することが報告されています。



メバチの幼魚(ダルマメバチ)

漁業・資源動向

【資源】



- ・ 漁獲がないと仮定して推定した産卵資源量に対する、実際の産卵資源量の比は、最近年を除いて減少傾向にあります。また、漁獲死亡は1980年頃から増加傾向にあります。
- ・ 2015～2018年の平均産卵資源量のレベルは限界管理基準値を上回っており、平均漁獲死亡は限界管理基準値を下回っていると推定されました。
- ・ これらのことから、3年に一度実施される最新の資源評価(2020年)では、資源水準は中位で動向は横ばいと評価されました。また、資源は乱獲状態の可能性が低く、漁獲努力が過剰でない可能性が高いと報告されています。

《国の資源評価へのリンクはこちら》

要約 https://kokushi.fra.go.jp/R04/R04_18S_BET-WCPO.pdf

詳細 https://kokushi.fra.go.jp/R04/R04_18_BET-WCPO.pdf

【漁業】

- ・ 2007年以降、中西部太平洋では年間13.0～17.1万トン、日本では年間1.0～4.0万トンの漁獲量で推移しています(図上)。また、静岡県への水揚量は、0.2～1.4万トンで推移しています(図下)。
- ・ 静岡県沿岸では、曳縄や沿岸竿釣り船によって、未成魚がキハダに混ざって漁獲されます。

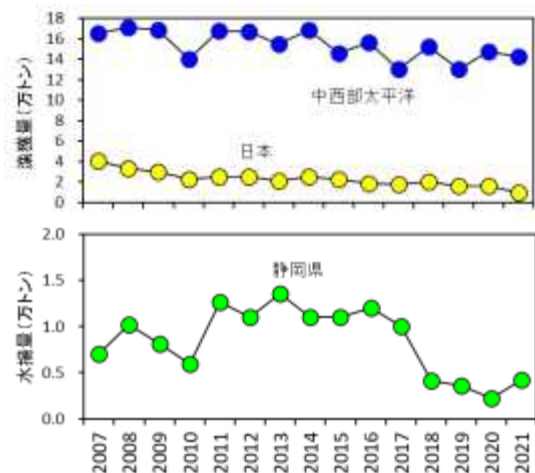


図 中西部太平洋と日本のメバチ漁獲量の推移(上)と静岡県のメバチ水揚量の推移(下)

担当者の一言:最も一般的な刺身用マグロ(赤身)です。地域によっては「ダルマ」とも呼ばれます。

問合せ先

静岡県水産・海洋技術研究所資源海洋科 054-627-1817